平成30(2018)年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム　報告書

団体名　　中能登町教育委員会　　(都道府県:石川県)

1．当該地域の情報　(2018年12月現在)

地域の課題	①日本語が十分話せない在住外国人と外国語を話せない地域住民との交流が少なく、在住外国人は孤立しがちである。 ②地域住民は、在住外国人との関係づくりに戸惑っている。 ③日本語による会話が不十分なことで、集落や隣近所のコミュニティがうまくいかない場合がある。
在住外国人数 外国人比率	197人　1.09%
在留外国人の状況	【主な国籍】1:中国　2:ベトナム　3:韓国　4:ミャンマー　5:朝鮮　6:フィリピン　7:タイ・スリランカ・イタリア・ブラジル・アメリカ 【在留資格】1:技能実習　2:永住者　3:特別永住者　4:日本人の配偶者　5:定住者、技能 【滞在年数・在留期間などの状況】 町内在留外国人のうち技能実習生が全体の約7割である。 このほか、永住者・特別永住者・日本人配偶者等がその他3割程を占めている。
在住外国人の日本語教育の現状	平成28年度までは、町内に日本語教室がないため、隣市である七尾市の協力を得て、臨時的な対応として七尾市国際交流協会へ学習希望の連絡があった中能登町在住外国人のために教室を提供していた。週2回(火・19:00～21:00、金・16:00～18:00)の日本語教室を当町生涯学習施設ラピア鹿島にて実施していた。平成28年度、1名の学習者がいたが都合により転出され、日本語教室は終了した。

2．事業の内容

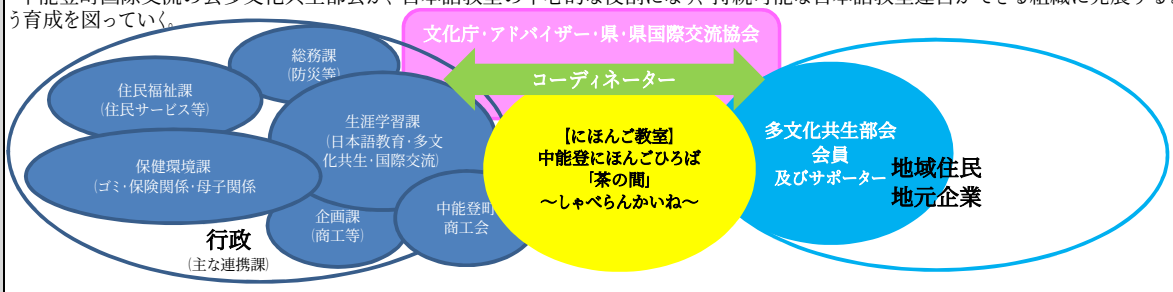
本プログラム取組年数	2年目
事業の目的	中能登町に生活する外国人住民が、生活に役立つ日常的な日本語を対話等を通じて学び、日本語を話す場所や機会としてコミュニケーションの場としての日本語教室開設を目指す。また、3年間に渡り調査や研究、検討、プレ教室やイベントの開催等を通して、外国人住民と地域住民、外国人を雇用する企業の暮らしのコミュニケーションに役立つ教室を目指す。具体的には、外国人住民を対象に、外国人住民が必要とし求めている内容に発展させるために年間を通してプレ教室を開催し評価する。また、日本語教室開講時にサポーターとして役割が担えるようにプレ教室の中で実践トレーニングとしてミニ講座を実施する。また、地域住民にとって外国人住民が身近な存在として互いに思いやる関係づくりとプラットフォームの役割を果たす。更には、外国人住民が中能登町の住民の一人として個々の能力を発揮し役割を担い、地域住民と共生しながら豊かに楽しく暮らせる町を目指す。
事業の概要	本年度は、前年度に実施した外国人住民のニーズ調査を基に、外国人住民が求めるプレ教室を開設した。また、技能実習生へのヒアリング調査を実施した。技能実習生の雇用状況からプレ教室の年間開催計画を4月当初に技能実習生及び企業へ配布、また町民に広報で周知をし、参加しやすい環境をつくった。「なかのとまち日本語教室をつくろう会(NNT)」の例会を固定し、プレ教室の企画及び運営を円滑にした。NNTの例会には、養成講座の要素を取り入れたミニ講座を実施し、コアメンバーがより自身が考える活動をしやすくなるようサポートを行った。中能登町広報での「多文化共生・国際交流のひろば」の充実や町のイベントで外国人住民の出番をつくり、住民との交流の機会を増やした。コミュニケーションの場としての日本語教室確立を目指し、安定した運営を試みた。 ①事業全体の計画策定…今年度の事業予定及び予算の策定。 ②2年目キックオフミーティングの実施…町長・副町長・教育長・参事兼総務課長が出席した。 ③技能実習生のヒアリング調査…昨年度は企業の外国人担当者へヒアリングを行った。今年度は技能実習生に直接意見を伺った。 ④にほんごプレ教室5回の開催…季節行事に絡めて、にほんごプレ教室を開催した。 ⑤NNT例会内でのミニ講座の実施…コアメンバーの学びとして実施する。(やさしい日本語、ワークの実践、心得、情報共有等) ⑥広報やイベントでの啓発活動…「多文化共生・国際交流のひろば」:毎月広報でにほんごプレ教室の案内や、やさしい日本語についての記事を掲載。イベントの周知や、町内の外国人状況等を掲載し、町民の知識や意識を高める事を狙いとした。また、町祭での多言語アナウンス(英語・中国語・ベトナム語)と多文化共生ブース、町小学校ALTによる、中能登町の伝統織物である能登上布織物の浴衣を着てのファッションショーへの参加等、初めての試みを行った。 ⑦役割の明確化と分担…教室の開催及び運営にあたり、役割を明確化し分担を行った。今年度から来年度にかけて、教室を開催しながらブラッシュアップを行っていく。 ⑧NNTの発展的解消…中能登町国際交流の会の「多文化共生部会」として日本語教室の運営開催を行う事を、町と国際交流の会とNNTで協議し決定をした。NNTメンバーは、来年度より国際交流の会会員となる予定。 ⑨活動場所の確保…町生涯学習センター「ラピア鹿島」内の空きスペース(旧保健センター)を、日本語教室「茶の間」の会場として利用できるようになった。(80㎡・うち和室約18畳)ホワイトボード、町のパンフレットやハザードマップ、リサイクル本(一般文献)、世界地図、メンバー用参考文献(日本語教育用)、子供用のおもちゃ(色紙・ビー玉・めんこ等)も町とメンバーの協力により準備できた。 ⑩中能登にほんごひろば「茶の間」スタート…3月から試行的に月1回のにほんご教室開催を始めた。 ⑪まとめ・事業報告…2月末にアドバイザーを交えての会議を行った。今年度全体や前日の会議内容のフィードバック及び教室の運営と開催に関するアドバイス、次年度への課題ブラッシュアップした。(参加者:アドバイザー・コーディネーター・町生涯学習課長、同課長補佐、担当者)教育長へ今年度の報告を行った。にほんごプレ教室を開催して、3年目のより安定した教室開催に向けての基盤を作れたかを確認した。
事業の対象期間	2018年4月～2019年3月
前年度の実績 (2年目以降の団体のみ記載)	1)外国人住民及び外国人技能実習生を雇用する企業へのヒアリング調査により実態を明らかにした。 また、プレ講座に参加した外国人住民からニーズを把握した。 2)日本語教室開設の主体になる住民を募り、21名(外国人住民5名を含む)が参加し、「なかのとまち日本語教室をつくろう会(NNT)」が発足した。NNTはコアメンバーとしてプレ講座の企画及び運営、先進地視察等を実施しながら日本語教育スタートアップの担い手を目指している。 3)日本語教室プレ講座を開催し、延31名の外国人住民が参加した。プレ講座は将来の日本語教室スタートアップのために外国人住民が求める講座の在り方を検討する実証実験及びNNTコアメンバーの研修に役立った。また、外国人住民とのネットワークができた。 4)文化庁地域日本語教育コーディター研修会の参加及び先進地視察を実施し、事業の進め方やスタート後の方向性を検討できた。 5)アドバイザーと共に中能登町らしい日本語教室の方向性を協議検討した。

	氏名	所属	職名	担当する役割
	大湯　章吉	中能登町国際交流の会	相談役	システムコーディネーター

担当コーディネーター	宮本　文栄	中能登町国際交流の会	副会長	システムコーディネーター
	宿谷　愛理	中能登町国際交流の会	会員	システムコーディネーター
	髙﨑　道代	中能登町国際交流の会	会員	教室コーディネーター
	尾田　パリーヌーシュ	中能登町国際交流の会	幹事	教室コーディネーター
	北原　千香子	中能登町国際交流の会	会員	教室コーディネーター
	鍛冶　リエン	中能登町国際交流の会	会員	教室コーディネーター
	福永　理夏	中能登町教育委員会	主事	システムコーディネーター(町担当者)
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	石井　恵理子	東京女子大学	教授	継続（２年目）
	今井　武	石川県国際交流協会	日本語専任講師	継続（２年目）
	各務　眞弓	可児市国際交協会	事務局長	継続（２年目）

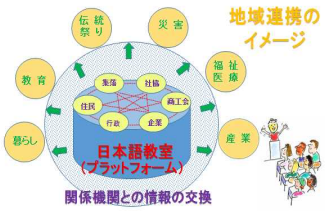
３．日本語教室の設置に向けた検討体制

（１）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制	･外国人に関する事項（国際交流，多文化共生）についての諸問題に対する中心的な役割は生涯学習課が行う。 ･技能実習生の状況の把握や，受け入れ企業との連携については，中能登町商工会に協力を依頼する。 ･防災関係は、総務課の担当に協力依頼をする。 ･その他，保健･福祉･医療などについても，生涯学習課から必要に応じて関係部局及び機関との連携･協力をはかる。 ･中能登町国際交流の会多文化共生部会が、日本語教室の中心的な役割になり、持続可能な日本語教室運営ができる組織に発展するよう育成を図っていく。 

所属（担当課）	担当者名	職名
生涯学習課	甘田　悟司	課長
総務課	土屋　哲雄	参事兼課長
企画課	高名　雅弘	課長
住民福祉課	平岡　重信	参事兼課長
中能登町商工会	合田　保徳	局長

（２）日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制	中能登町における日本語教育プログラムの策定やニーズ調査の実施，交流行事などについては，以下のような関係機関と連携･協力を行い，実施していきたいと考えている。中能登町ならではの行事や，文化交流（伝統料理や祭りなど）には，地区･自治会や各種団体等，地域コミュニティーに協力を仰いで，イベントへの参加を通じて日本語教室への関わりをもってもらえるように進めたい。 ○日本語教室の情報共有：近隣市町日本語教育担当課（七尾市･羽咋市･宝達志水町等） ○日本語教育人材の育成：石川県国際交流協会 ○住民間の文化交流イベントや多文化共生の催し：中能登町国際交流の会 ○防災訓練：消防，地区･自治会，学校，企業など ○安全講習：警察や企業など ○医療･子育て関係：保健環境課，住民福祉課，病院関係者等 ○他地域の日本語教室実施モデルの紹介：石川県内の日本語教室関係者ほか 

組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
中能登町国際交流の会	生涯学習課	主事	福永　理夏
石川県国際交流協会	生涯学習課	主事	福永　理夏

４．具体的な取組内容

（１）年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
2018年 4月	・事業計画の策定、2年目キックオフミーティング ・中能登町広報誌内コーナー「多文化共生・国際交流のひろば」への掲載 ・技能研修生を雇用する企業へ年間プレ教室の案内及び 協力要請 ・NNT例会：毎月1回第1水曜日2時間程度（プレ教室企画立案・ミニ講座等） ・プレ教室「花見で日本語を学ぼう」	・事業計画の策定及び 2年目キックオフミーティングの企画運営 ・NNT例会、プレ教室の企画及び運営 ・中能登町広報誌原稿作成	
2018年 5月	・中能登町広報誌内コーナー「多文化共生・国際交流のひろば」への掲載 ・NNT例会：毎月1回第1水曜日2時間程度（プレ教室企画立案・ミニ講座等）	・NNT例会の企画運営、サポーター研修 ・プレ教室の企画 ・中能登町広報誌原稿作成	
2018年 6月	・中能登町広報誌内コーナー「多文化共生・国際交流のひろば」への掲載 ・NNT例会：毎月1回第1水曜日2時間程度（プレ教室企画立案・ミニ講座等） ・NNT例会にてアドバイザーによる研修会（プレ教室開催に向けて等） ・空白地域解消推進会議（文化庁）	・NNT例会の企画運営、サポーター研修 ・プレ教室の企画 ・中能登町広報誌原稿作成 ・空白地域解消推進会議（文化庁）	★サポーター研修会
2018年 7月	・中能登町広報誌内コーナー「多文化共生・国際交流のひろば」への掲載 ・NNT例会：毎月1回第1水曜日2時間程度（プレ教室企画立案・ミニ講座等） ・NNT例会にてアドバイザーによる研修会 （コーディネーターとサポーターの役割） ・プレ教室「日本語を学んで町祭を楽しもう」 ・町祭で多文化共生ブースを設置 ・町祭で多言語アナウンスを実施（英語・中国語・ベトナム語）	・NNT例会の企画運営、サポーター研修 ・プレ教室の企画及び運営 ・中能登町広報誌原稿作成 ・視察（金沢）	★サポーター研修会
2018年 8月	・中能登町広報誌内コーナー「多文化共生・国際交流のひろば」への掲載 ・NNT例会：毎月1回第1水曜日2時間程度（プレ教室企画立案・ミニ講座等）	・NNT例会の企画運営及びサポーター研修 ・プレ教室の企画 ・中能登町広報誌原稿作成 ・コーディネーターフォローアップ研修	
2018年 9月	・中能登町広報誌内コーナー「多文化共生・国際交流のひろば」への掲載 ・NNT例会：毎月1回第1水曜日2時間程度（プレ教室企画立案・ミニ講座等） ・プレ教室「月見で日本語を学ぼう」（アドバイザー参加）	・NNT例会の企画運営及びサポーター研修 ・プレ教室の企画及び運営 ・中能登町広報誌原稿作成 ・視察（金沢）	★プレ教室の指導
2018年 10月	・中能登町広報誌内コーナー「多文化共生・国際交流のひろば」への掲載 ・NNT例会：毎月1回第1水曜日2時間程度（プレ教室企画立案・ミニ講座等） ・NNT例会にてアドバイザーとの意見交換会 ・事業の中間まとめ（振り返り）	・NNT例会の企画運営及びサポーター研修 ・プレ教室の企画 ・事業中間まとめの企画運営 ・中能登町広報誌原稿作成 ・視察（金沢・根上）	★中間事業報告 ★年度の後半について
2018年 １１月	・中能登町広報誌内コーナー「多文化共生・国際交流のひろば」への掲載 ・NNT例会：毎月1回第1水曜日2時間程度（プレ教室企画立案・ミニ講座等） ・プレ教室「紅葉散策で日本語を学ぼう」	・NNT例会の企画運営及びサポーター研修 ・プレ教室の企画運営 ・中能登町広報誌原稿作成	
2018年 １２月	・中能登町広報誌内コーナー「多文化共生・国際交流のひろば」への掲載 ・NNT例会：毎月1回第1水曜日2時間程度（プレ教室企画立案・ミニ講座等） ・技能実習生のヒアリング調査	・NNT例会の企画運営及びサポーター研修 ・プレ教室の企画 ・技能実習生のヒアリング調査の実施 ・中能登町広報誌原稿作成	★サポーター研修会
2019年 1月	・中能登町広報誌内コーナー「多文化共生・国際交流のひろば」への掲載 ・NNT例会：毎月1回第1水曜日2時間程度（プレ教室企画立案・ミニ講座等） ・技能実習生のヒアリング調査 ・日本語教室開催（試行）	・NNT例会の企画運営及びサポーター研修 ・プレ教室の企画 ・技能実習生のヒアリング調査の実施 ・中能登町広報誌原稿作成 ・視察（愛知県・磐田市）	
2019年 2月	・中能登町広報誌内コーナー「多文化共生・国際交流のひろば」への掲載 ・NNT例会：毎月1回第1水曜日2時間程度（プレ教室企画立案・ミニ講座等） ・NNT例会にてアドバイザーとの意見交換会 ・プレ教室「節分で日本語を学ぼう」 ・事業のまとめ（振り返り）、実績報告書の作成 ・事業報告会 ・日本語教室開催（試行）	・NNT例会の企画運営及びサポーター研修 ・プレ教室の企画運営 ・中能登町広報誌原稿作成 ・事業のとりまとめ ・実績報告書の作成作業	★年度末事業報告会 ★来年度事業計画検討
2019年 3月	・中能登町広報誌内コーナー「多文化共生・国際交流のひろば」への掲載 ・NNT例会：毎月1回第1水曜日2時間程度（プレ教室企画立案・ミニ講座等） ・次年度計画の策定 ・日本語教室開催（試行）	・NNT例会の企画運営及びサポーター研修 ・プレ教室の企画 ・中能登町広報誌原稿作成 ・次年度計画の策定作業	

（2）立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	中能登町にほんごひろば 「茶の間」 ～ しゃべらんかいね ～		
外国人参加者について	[国籍] 中国7名, ベトナム4名, アメリカ1名 [属性] 技能実習生、日本人配偶者、英語指導助手	参加者数 （内 外国人数）	受講者12名 サポーター15名 （サポーター3名）
開催時間数	総時間　12　時間	内訳　2　時間 ×　6　回	
目標	外国人住民が日本語を話す場所や機会をつくる。 外国人住民が生活に役立つ身近な日本語を会話やワーク、実践や活動を通じて学ぶ。 外国人住民が日本文化や地域の行事を通し、社会とのつながりを意識するきっかけをつくる。 日本人住民の多文化共生への理解及びサポーターとしての活躍、地域コミュニティと外国人住民をつなぐ役割を見出す。 お互いに顔の見える関係をつくること及び多文化共生の拠点を目指す。		

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2018年4月15日	2	ラピア鹿島	11	お花見で日本語を学ぼう	受付後、町バスに乗車し古墳公園で散策。 桜スポット（車窓）経由し会場へ戻った。 グループごとに自己紹介。母国の季節の話や日本のお花見についての会話をした。	サポーター14名 その他参加者12名
2	2018年7月22日	2	ラピア鹿島	9	町祭で日本語を学ぼう	自己紹介（名前、出身国、夏に食べたい・飲みたいもの） 昨年の町祭DVDを鑑賞した。グループごとに町祭プログラム、ポスターをから情報を引き出して会話をした。最後に全体で共有をした。	サポーター12名 その他参加者2名
3	2018年9月16日	2	みおやの里	25	お月見で日本語を学ぼう	自己紹介（名前、年齢、出身国、古民家での気づき等） 日本の月見習慣をお供えや紙芝居で紹介をした。 月の中に見えるものを絵で書き日本語で説明をした。 月見団子を食べながら交流を深めた。	サポーター15名 その他参加者22名
4	2018年11月11日	2	石動山 大宮坊	17	紅葉で日本語を学ぼう	自己紹介。スケジュール、活動、注意事項　説明 紅葉等のベストショットを撮るため、日本語で対話をしながら各自のスマホで撮影をした。 マイベストショットを日本語で紹介してもらった。	サポーター10名
5	2019年2月3日	2	ラピア鹿島	11	冬の行事	アイスブレイク。Can Do Statements記入。 日本の行事を聞いて理解したり、体験したりした。 ワークを使って、自国の行事について日本語で表現（書く、話す） をした。	サポーター15名
6	2019年3月3日	2	ラピア鹿島	12	休みの日行きたいところ	アイスブレイク。Can Do Statements記入。 休みの日について日本語で話した。 ワークを使って、行きたいところや交通手段を聞いたり話したりした。会話したことを整理して日本語で表現した。	サポーター16名 その他参加者4名

【主な活動】

国指定史跡　石動山の大宮坊前にて。
歴史的に復元された建物を見学した後、各自で紅葉等のベストショットを撮影し、撮影場所やお気に入りポイントを日本語で発表をした。
（紅葉で日本語を学ぼう）

Can Do Statementsの記入。
この後、日本の「節分」についての会話をしたり、母国に似たような行事があるか？等会話をした。実際に豆まきも行った。
（節分で日本語を学ぼう）

教室開始前に、アイスブレイクで
Hokey Pokeyをしているところ。
（休みの日にいきたいところ）

（3）その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
日本語ミニ講座（2回）	2018/5/16 2018/6/13 19:00～20:30	①日本語テキスト外国語学習体験･･･今井アドバイザーによる講座。外国語としての日本語を学習する際使用するテキストを使い、文型の提出順を整理。やさしい日本語の参考になることをねらいとした。 ②ペルシャ語学習体験･･･イラン出身の方（現･教室コーディネーター）によるペルシャ語で挨拶、数字の読み書き、幼児用の絵本を直接法で学習。外国語を習得することの困難さや、外国語で生活することの不安等を体感することにより、日本語学習者への理解が深まった。
中能登町防災訓練への参加	2018/7/9 9:00～11:00	町の防災訓練に、町内企業の技能実習生が参加した。町職員及び多文化共生部会会員が同行し、説明や一緒に見学や体験をした。具体的には、避難者登録シートに記入をしたり、避難所で使用する簡易トイレの説明を聞いたりした。また、NTT職員による災害伝言ダイヤルや、Wi-fi利用についての説明も受けていた。初期消火訓練として、消火器を実際に使って火を消す体験もした。防災や災害への理解が深まったと思われるが、町としての訓練内容等の課題が残る為、担当課と連携をして在住外国人により実践的な訓練を行える様取り組んでいきたい。
町祭多言語アナウンス	2018/7/28 15:00～21:00	企画課内の障害攻略課のプロジェクトと連携をし、多言語アナウンスを行った。町中学校勤務のALTに英語を、町内在住外国人2名（現･教室コーディネーター）に、中国語とベトナム語をそれぞれ録音してもらい、また大画面でテロップも同時に流した。内容は、全てではなく「まもなく町祭が始まります」や、「ゴミの分別にご協力ください」等、次回以降も使える内容とした。
町祭ブース参加 NNT活動報告と国際理解		日本語教室立ち上げに向けた取り組みを地域の方々にも周知するため、町祭でブースを出展した。 ベトナム、中国の衣装を展示したり、多文化共生についてや、中能登町の外国人数、日本語教室開設に向けた取り組み等も紹介した。また、簡単なクイズを用意し正解者にベトナムか中国のお菓子をお渡しした。多くの来場者がクイズに参加し取り組みへの理解につながったと思われる。
町祭総踊りへの参加		ベトナム人の女性数名が、ベトナムの民族衣装である「アオザイ」を着て参加してくれた。300名程の町民が浴衣等を着て炭坑節や中能登音頭を踊っている輪の中で一緒に踊った。鮮やかなアオザイを着て輪の中に入ることにより、ベトナム人女性にとっても町民にとっても新鮮な体験となっていた。
町祭ファッションショーへの参加		企画課内の障害攻略課のプロジェクトの依頼により、町内に勤務するALT2人が町祭ファッションショーに出演した。中能登町の伝統織物の「能登上布」の浴衣を身にまとい、堂々とした様子で登場し町民にも好評だった。ALT2人は、町祭について学ぼうという内容の日本語教室に出席したり、ウォーキングの練習に参加をしたりと、地域住民との関わりが当日以外にもあった。
中能登町職員会研修会 「やさしい日本語」講座	2018/8/29 18:00～19:30	近年、町内在住の外国人住民が増える傾向にあり、「やさしい日本語」の必要性と理解の普及を図り、互いに顔の見える関係を構築し、「やさしい日本語」を通して、日本人と外国人のコミュニケーション能力を高める。 また、行政内で「やさしい日本語」の普及を通して、緊急時の外国人への情報提供や窓口対応等を容易にし、多文化共生を推進することを目的とした。
日本語ミニ講座	2018/12/5 19:00～20:30	学びに結び付ける接し方･･･今井アドバイザーによる講座を行った。これから教室活動を行うメンバーに対し、具体的にどうしたら良いか、またどこに気を付けるべきかを教わった。 ＜内容＞ ①「クラスの最初の5分」を考えてみましょう。2人で考えてサポーター役と外国人参加者役になってやってみましょう。 ②「ちょっと気をつけること」を参考にしながら、どんなクラスができるか「活動」を考えてみよう。
生涯学習のつどい ブース参加と「茶の間」紹介	2019/2/16 13:00～16:00	毎年500名程が来場する、生涯学習課主催の「生涯学習のつどい」の際に、ポスターやちらしによる周知活動を行った。実際に日本語教室「茶の間」の部屋を見ていただいたり、サポーターによる詳しい説明を行ったりした。

【主な活動】

避難所受付窓口にて、避難者登録シートに記入をする中国人技能実習生
（町防災訓練）

多文化共生ひろばとして、日本語教室開設に向けての取り組み等を掲示。また、ベトナムと中国の民族衣装の展示をし、簡単なクイズに答えると外国のお菓子がもらえる企画も行った。
（町祭ブース参加）

今井アドバイザーの講義を聞く町職員。
（中能登町職員会研修会）

５．今年度事業全体について

進捗状況	･組織を作り役割分担を行った。 ･月1回のミーティングに加え月1回の日本語教室を開始した。
成果	･中能登にほんごひろば「茶の間」～しゃべらんかいね～ が立ち上がった。また、会場も確保できた。 ･組織として、NNTが発展的解消し、中能登町国際交流の会の「多文化共生部会」として活動する事が決まった。 ･活動費として予算要求を行った。（来年度より、町が国際交流の会多文化共生部会に日本語教室運営を委託予定） ･役割分担をしたことにより教室運営に対し積極的な提案や行動につながった。 ･場所と時間を固定したことで開催が安定し、学習者が口コミで参加することがあった。 ･チラシやポスターによる外国人学習者の参加があった。
地域の関係者との連携による効果	･プレ教室や日本語教室のポスター掲示やチラシ設置に協力いただいた。 ･技能実習生がいる企業に、防災訓練への参加やヒアリング調査への協力を得られた。
コーディネーターの主な活動	①ニーズの調査(3H) ②体制整備のための調整(103H) ③人材育成のための調整(32H) ④日本語教室開設及び運営のための調整(62H) ⑤教材作成に向けた調整(5H) ⑥その他(2H) （具体的な内容：　プレ教室参加対象外国人への案内）
アドバイザーの主な助言	･役割分担の更なる明確化を、教室を開催しながら行っていく。 ･外国人コーディネーターの更なる活用をしていくこと。（生活講座の開催等） ･教室開催の内容は、もっと基本的な事を取り入れていくと良い。 ･教室の「ねらい」を、全員の共通認識とする。 ･失敗しても良い。PDCAを繰り返して、反省･振り返りを大事にしながら取り組みを。 ･町内企業への働きかけや連携を誰がどのようにどこまで行うのか検討を。（地域･町･企業の３者連携を） ･外国人住民が転入してきた時に、「茶の間」の案内をお渡しできる仕組み作りを。
今後の課題	･教室運営や教室内容の確立すること。（教室のルール作り、役割分担の明確化など） ･サポーターの募集と育成方法を構築していく。 ･学習者への活動周知方法について。 ･学習者のニーズに合う教室のコースデザインの仕方。 ･新規サポーターへの対応について。 ･学習者の登録及び個人情報の取り扱いについて。 ･町内企業との連携。
今後の予定	･月１回の日本語教室開催運営のために、中能登町国際交流の会多文化共生部会の会議を開催する。 ･毎月第１日曜日の午前中に日本語教室を開催する。（日時回数は暫定） ･講座の開催、研修や視察等を行い、会員のスキルアップを行う。 ･教室案内、広報活動及び会員の募集を行う。 ･他課や他団体との連携、及び企業との連携を進める。

本件担当　：　中能登町教育委員会･生涯学習課･日本語教育担当